

平成 24 年度高大連携・学問探検ゼミの成果報告会を開催しました

2013年2月1日に「教育GP」の中核事業である「学問探検ゼミ（大学2年生向けの中級演習）」の宮町・佐藤ゼミの成果報告会が大分大学経済学部 202号教室にて開催されました。当日は大分市内の高校生225名、宮町・佐藤ゼミに所属する経済学部2年生6名、高大の教員15名、合計246名が参加者しました。今年度の「学問探検ゼミ」は、大分鶴崎・大分南・大分^{おぎのだい}雄城台の各高校2年生19名、本学経済学部2年の学生48名が4つのゼミ（高見ゼミ、青野ゼミ、藤村ゼミ、宮町・佐藤ゼミ）に分かれて開講しました。宮町・佐藤ゼミには、大分鶴崎・大分南・大分雄城台の各高校から7名、本学経済学部生6名が参加し、高大の教員3名が指導に当たりました。

この事業は「学びは高きに流れる」ことを基本理念として、高大それぞれの立場から連携教育を発展的に推進しようとする取組です。大分県教育委員会と本学は、平成19年7月に高大連携協力協定を結び、平成20年度以降、各高校から生徒を迎え「学問探検ゼミ」を実施してきました。「学問探検ゼミ」は、高校生が“学問の入口”を大学生といっしょに学ぶことで大学生のリーダーシップの養成、高校生が大学の授業の様子を知ることや進学意識の向上や課題を見据えた進路選択の明確化に役立たせようと、高校と本学経済学部との高大連携授業として位置づけられています。



宮町・佐藤ゼミでは、興味関心のある社会科学系学問分野を各グループで設定し、具体的な事例を調査研究してまいりました。テーマの設定や文献調査の仕方、問題意識、論文のまとめ方、高校生の指導、発表用スライドの作成の仕方など、悪戦苦闘の連続でした。当日は、3グループの発表が行われました。発表テーマは「大分の経済を元気に～大分の現状と問題を地域学から研究する～」

、「最低賃金とワーキングプア～労働法と労働経済学～」、「プロスポーツと地域社会～大分トリニータの経営学～」で、いずれも大分県の活性化を目指し各学問分野からアプローチした内容でした。高校2年のAさんは、「興味のある分野を研究する楽しさと難しさを体験できた。」と話していました。

発表後、来場した高校生から「B級グルメと経済効果の関係」「プロスポーツと県内経済の浮揚の関係」などの質問が出され質疑応答が行われました。

終わりに宮町良広教授から受講高校生に修了証書が授与され、佐藤裕哲特任教授が本ゼミの意義と報告会の講評を行い、盛況のうちに閉会となりました。

受講生のアンケートから、「授業に意欲的に取り組んだ（高校生77%、大学生83%）」、「高大の生徒・学生と一緒に良かった（高校生92%、大学生100%）」、「授業の内容は興味持てる内容で合った（高校生85%、大学生100%）」、「総合的に判断して授業は良かった（高校生100%、大学生100%）」、来場した高校生のアンケートから、「発表内容は興味を持てる」（89%）、「総合的に判断して今日の発表会は良かった」（97%）などの評価が得られました。

